

目次

- I 新出屏風絵に寄せて
- 2 話題になった探幽「日本美術の名品」展開幕
- 5 本学教官寄贈著書紹介
- 6 私の一冊
- 7 平成11年度附属図書館統計
- 8 Ask Us としょかんミニガイド
- 9 とびっくす
- 10 掲示板

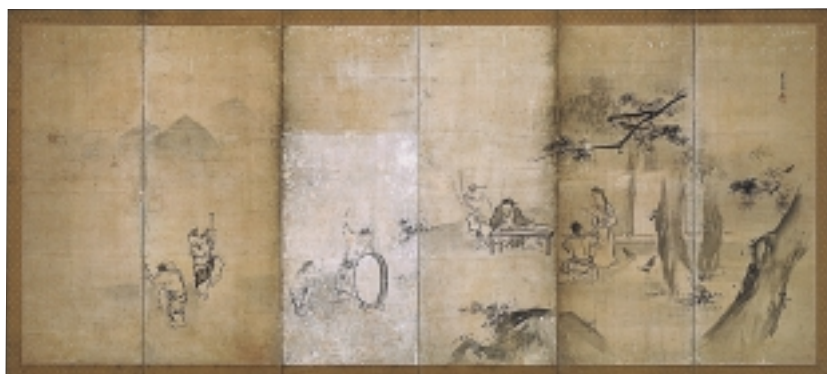
新出屏風絵に寄せて

板橋 秀一

附属図書館では芸術学系と共催で、「筑波大学附属図書館所蔵 日本美術の名品」の特別展示を5月22日～6月9日の期間に開催した。これは5月26日～28日に筑波大学で開催される美術史学会に合わせて企画されたが、その出展作品の調査中に新たに屏風絵3双が発見された。それらが狩野探幽、狩野尚信、田村直翁の作になるものと判定されたが、その

大まかな経緯は以下の通りである。

展示会にかねてから出展予定であった狩野山雪筆の掛け軸「歴聖大儒像」6幅を調査するため、本学芸術学系の守屋正彦助教授（近世絵画史研究が専門）が平成11年12月に図書館に来館されたが、その際貴重書庫に保管されていた屏風絵2双の調査を図書館で依頼した。平成12年3月に守屋



狩野探幽筆「野外奏楽、猿曳図」屏風六曲一双

助教授から調査結果の報告があり、それらが狩野探幽および狩野尚信の筆になるもので、いずれもこれまで美術界で紹介されたことのない貴重なものであるとの判定がなされた。この判定にあたっては、日本美術史研究、中でも狩野派の研究を専門とする河野元昭東京大学教授に写真による判断を仰いだ。さらにその後調査を進める過程で田村直翁の屏風絵1双が見つかったため、河野教授に図書館から出張鑑定を依頼した。その結果これら3作品が真作であることがあらためて確認された。著名な画家による屏風絵の発見は近年きわめて稀なことであり、しかもこれまで美術界で紹介されたことのない作品が一挙に3点も新たに発掘されたことは注目すべきことである。

これらの屏風絵はこれまで貴重書庫に保管されてきたが、以前から表具の劣化が激しく、必ずしも良い状態で保存されていたとは言えない。各屏風ともそれを納める木箱がなく、薄紙をかけた程度の簡便な包装状態で置かれていた。これらの屏風絵は筑波大学の旧蔵品ということで、開学以来特に専門家に照会することもなく保管されてきたものである。

3双の屏風絵がどのような経緯で附属図書館に収蔵されるに至ったかについては、現時点では確定的なことは何も明らかになっていない。前身校

である東京教育大学当時の図書館職員の話によると、昭和18年以前、前身校の東京文理科大学の図書館に保管されていたものと思われる。それ以前には学長室に飾られていたともいわれているが、伝聞の域を出ない。江戸期の儒学者林羅山が狩野山雪に画かせた「歴聖大儒像」が古くから本学に伝えられていることから、湯島聖堂の学舎を受け継いだ本学の前身校である師範学校以来の収蔵品とも考えられる。本屏風絵が画かれた時代および林羅山と狩野探幽との関連から考えると、昌平覺伝来の資料の可能性もある。収蔵の経緯については専門家による今後の調査を待ちたい。

本学は明治5年の師範学校以来、東京師範学校、高等師範学校、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学を経て筑波大学に至っているが、120余年の長きに渡り幾多の変遷を経て良くぞ保管されてきたという感がある。

江戸幕府は武士の教養の第一として儒学を奨励したが、その推進に力のあった林羅山、彼と親交のあった狩野探幽、今回判明した探幽・尚信による儒教的色彩の濃い屏風絵等のつながりを考えると、専門外の筆者でも気になることが少なくない。専門家にとっては興味の尽きない対象であろう。

(いたばし・しゅういち 附属図書館長)

話題になった探幽 「日本美術の名品」展閉幕

筑波大学芸術学系と附属図書館の共催による「日本美術の名品」と題する展示会が5月22日から6月9日まで開催され、学内はもとより近県や遠くは北海道、鹿児島県など全国各地から約4,300人もの来場者がありました。

この展示会は、狩野探幽・尚信、田村直翁の筆になる屏風の発見という劇的な出来事により、当初の企画から開催規模も内容も大きく様変わりし、関係者を奔走させることとなりましたが、多くの方々のご協力とご支援により好評のうちに3週間の会期を閉じることができました。

以下、展示会等の様子を報告しますが、展示された資料は筑波大学電子図書館 (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>) にて詳細な画像を提供していますので併せてご覧ください。

特設会場にて発表を行う北原学長、板橋館長ほか記者発表は4月20日に行われ、北原保雄学長らが、本学の前身である東京教育大学以前から保管されていた狩野探幽の屏風等を発見した経緯について発表し、全国の主要各紙に大きく報道されました。その後、展示会に向けてワーキンググルー

プも結成され、準備が急ピッチで進められました。(写真1)

特別展オープニングセレモニー

オープニングセレモニーでは、北原学長が「新しい大学に、古くからの伝統が生かされているさまを觀賞してほしい。」と、板橋館長が「この度発見された貴重な資料を、はじめて図書館が公開する意義。」などを語られ、引き続き、学長、館長、白木芸術学系長の3人によるテープカットが執り行われました。(写真2)

新出屏風 狩野尚信筆^{りはくかんぱく} 李白觀瀑^{せんけいほうたいず}、剡溪訪戴図

探幽の弟であり、探幽とともに幕府の御用絵師として活躍した狩野尚信の作品です。画題は中国の故事によるものですが、右隻と左隻をよく見比べてみると、太陽と月、あるいは夏と冬といった対になる情景が描かれていることがわかります。(写真3)

新出屏風 狩野探幽筆 「野外奏楽、猿曳図」

今回の新出屏風の新聞報道では、「探幽の屏風発見」と、この屏風を前面に出した見出しが数多く見受けられました。高名な画家の、しかもこれまで知られていなかった作品だけに、この屏風を目当てに来場された方も多かったようです。今回の特別展のシンボリック作品として、図録の表紙やポスターにも用いられました。(写真4)

狩野山雪筆^{れきせいたいじゆぞう} 「歴聖大儒像」

本来21幅からなる作品で、現在は朱子等の宋代の儒者を描く6幅が本学に、残り15幅が東京国立博物館にあります。本図は、林羅山が絵を狩野山雪に、賛を朝鮮通信使の副使であった金世濂に依頼して完成したもので、湯島聖堂に伝来してきたことも含めて由緒正しい作品です。6幅すべてを^{せきてん}釈奠の際に掛けていた形で公開したのは、筑波大学としては今回が初めてのことでした。(写真5)

「大智度論^{だいちどろん}」と「瑜伽師地論^{ゆかしじろん}」

石山寺一切経の黒印を持つこの両巻は、ともに

天平時代のもので、「大智度論」は附属図書館で所蔵する最古の資料です。両巻とも随所に白訓点が付されていて国語学の資料としても貴重なものですが、肉眼では見にくかったこの白訓点も「大智度論」の高精細画像に画像処理をした結果、はっきりと見えるようになり、その成果の一部も展示しました。(写真6)

オンラインによる電子展示

展示会場ではオンラインによる高精細画像の電子展示も行われました。大型のプラズマディスプレイに映し出された映像は、原物では確認の難しい細部まで精妙な色彩や筆跡を再現し、多くの来場者の関心を集めました。(写真7)

案内や広報に一躍かった各種サイン

当初から多数の学外者の来場が見込まれ、展示会場への館内誘導サインの他に、バス停から図書館までの案内にも工夫がされました。また、入館ゲートの上に掲げられた看板と、バス停用に考案したサインスタンドが広報におおいに貢献しました。(写真8)

展示された資料一覧

- 1 大智度論 巻第70 1軸 天平6(734)年写
- 2 瑜伽師地論 巻第73 1巻1帖 天平16(744)年写
- 3 金剛頂経瑜伽修習毘盧遮那三摩地法^{こんごうちょうきょうゆかしゅうしゅうびるしゃなさんましほう} 1巻1軸 延長8(930)年以前写
- 4 歴聖大儒像 6幅 寛永9(1632) 狩野山雪筆
- 5 「野外奏楽、猿曳図」屏風 6曲1双 江戸初期(1650-60頃) 狩野探幽筆
- 6 「李白觀瀑、剡溪訪戴図」屏風 6曲1双 江戸初期(1640-50頃) 狩野尚信筆
- 7 「架鷹図^{かようず}」押絵貼屏風 6曲1双 江戸前期・元禄(1688-1703頃) 田村直翁筆

(参考出品)

- 1 賢聖障子図(3枚/14枚)
 - 2 住吉物語絵巻(複製)
- (特別展示ワーキンググループ)



記者発表(写真1)



特別展オープニングセレモニー(写真2)



新出屏風「李白観瀑, 剡溪訪戴図」(写真3)



新出屏風に見入る観覧者(写真4)



「歴聖大儒像」狩野山雪筆(写真5)



「大智度論」と「瑜伽師地論」(写真6)



電子展示(写真7)



バス停のサイン(写真8)

本学教官寄贈著書紹介

平成12年1月～平成12年4月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

(敬称略, 寄贈者五十音順, []内は配架場所と配架番号です。)

石井由香 (社会科学系)

- ・エスニック関係と人の国際移動. 国際書院, 1999 (国際社会学叢書ヨーロッパ編: 別巻1) [中央 334.522-I75]

牛島巖 (歴史・人類学系)

- ・Bisayan knowledge movement & identity. Third World Studies Center, 2000 (Visayas maritime anthropological studies: 3) [中央 389.248-U93]

卯城祐司 (現代語・現代文化学系)

- ・英語リーディング事典. 研究社出版, 2000 [中央 参考375.893-Ta46]

大塚和弘 (物質工学系)

- ・Solid-solid phase transformations. Japan Institute of Metals, 1999 (The Japan Institute of Metals proceedings: vol. 12 (JIMIC-3) pt. 1, 2) [中央 563-Ko36-1, 2]

勝田茂 (体育科学系)

- ・運動生理学20講. 第2版 朝倉書店, 1999 [体芸 780.193-Ka88]
- ・登山生理学. 逍遙書院, 1972 (新体育学講座: 第60巻) [体芸 780.8-Sh69-60]
- ・入門運動生理学. 杏林書院, 1997 [体芸 780.193-Ka88]

熊谷恵子 (心身障害学系)

- ・学習障害児の算数困難. 多賀出版, 2000 [中央, 大塚 378.6-Ku33]

呉羽正昭 (地球科学系)

- ・Wintersportgebiete in Österreich und Japan. Selbstverlag des Instituts für Geographie der Universität Innsbruck, 1995 (Innsbrucker geographische studien: Bd. 24) [中央 689.2-Ku59]

駒井洋 (社会科学系)

- ・超過滞在外国人と在留特別許可. 明石書

店, 2000 (明石ブックレット: 8) [中央 329.94-Ko57]

桜井茂男 (心理学系)

- ・問題行動の底にあるもの. 教育出版, 2000 [中央 371.45-Sa47]

佐藤政良 (農林工学系)

- ・Workshop on sustainable management of Mae Klong river basin, Thailand. University of Tsukuba, 1999 [中央 612.237-Sa85]

立川孝一 (歴史・人類学系)

- ・フランス革命. 中央公論社, 1989 (中公新書: 933) [中央 235.06-Ta14]

田林明 (地球科学系)

- ・持続的農村システムの地域的条件. 農林統計協会, 2000 [中央 611.92-Ta11]

星野力 (機能工学系)

- ・ロボットにつけるクスリ. アスキー出版, 2000 [中央 007.1-H92]

堀憲之 (機能工学系)

- ・デジタル制御システム入門. 槇書店, 1992 [中央 548.3-Ka44]
- ・デジタル制御の基礎と演習. 槇書店, 2000 [中央 548.3-Ka44]

堀池信夫 (哲学・思想学系)

- ・道教の生命観と身体論. 雄山閣出版, 2000 (講座道教: 第3巻) [中央 166.08-Ko98-3]

八木春生 (芸術学系)

- ・雲岡石窟文様論. 法藏館, 2000 [体芸 702.22-Y15]

柳沼重剛 (名誉教授)

- ・トゥキユディデスの文体の研究. 岩波書店, 2000 [中央 231.3-Y16]



私の一冊

田林 明

「持続的農村システムの地域的条件」

田林 明・菊地俊夫著（農林統計協会）

〔中央 611.92-Ta11〕



農業は作物や家畜などの生物を扱うので、他の経済活動よりも大きく自然環境に左右される。それだけに化学肥料や農薬，農業機械などを用いた効率的で生産性の高い農業を目指せば，環境の質の低下や環境破壊を引き起こすことになる。いかに環境を悪化させないで農業生産を維持し，しかも農民が経済的に，社会的・文化的に高い水準の生活を維持し，農村の活力を保っていくかが，日本を含む先進工業国の大きな課題である。江戸時代のように環境に与える人間活動の負荷を小さくしておくということだけではなく，近代科学によってかなり高度の生産性と収益性をあげ，同時

に高い生活水準を実現しようという，いわば虫のよい状況が持続的農村である。

このような持続的農村に関する研究は，農学や社会学，経済学，文化人類学，生態学，地理学など様々な分野において1980年代末から盛んになるが，われわれは1993年に組織された国際地理学連合持続的農村システム研究グループの活動に大きな刺激を受けた。このグループの第3回国際シンポジウムが1995年8月に筑波大学で開催され，これを契機にわれわれも農村の再生を目指して本格的な調査・研究を始めた。日本においては大都市近郊農村における女性農業者グループの活躍，大都市圏内の稲作農村における伝統的村落組織の再評価，直販に依存する果樹農村の活力，山村における高齢者の農業維持のための役割，遠隔地の稲作農村や軽種馬農村の景観と経済活動，社会的・文化的活動などの調査を行った。また，カナダの南オンタリオの混合農業やニュージーランドの土地利用パターンの変化についても検討した。これらを通してそれぞれの場所の条件がどのように生かされ，環境の質が維持され，活力のある農村がつくられているかといった実態を明らかにし，持続的農村を実現するための条件を探ろうとしたのが本書である。

（たばやし・あきら 地球科学系教授）





平成11年度附属図書館統計

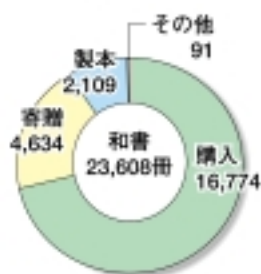
詳細な統計は、WWW ページでも提供しておりますのでご覧ください。

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/outline/statistics-1999.pdf>

蔵書数 2,075,931冊



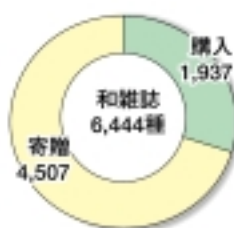
年間受入冊数 38,427冊



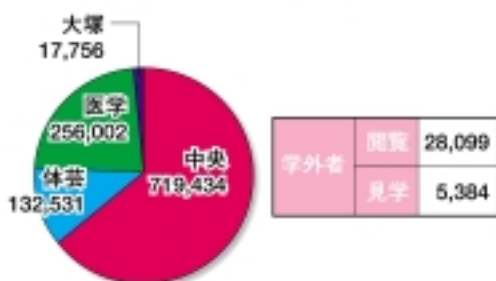
所蔵雑誌タイトル数 18,000種



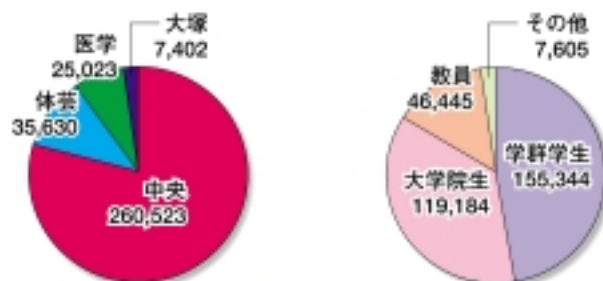
継続雑誌タイトル数 11,646種



入館者数 1,125,723人



貸出冊数 328,578冊



学内利用対象者数 20,845人

利用者タイプ	教員	職員	学群学生	大学院生
人数	1,837	2,978	10,160	5,870



IDEAL の利用について

IDEAL は AcademicPress 社を始めとする 4 つの出版社が提供する電子ジャーナルサービスです。本学で購読している雑誌約100タイトルの他、購読していない約130タイトルのフルテキスト(1999年、2000年発行分)が利用できます。

Q : IDEAL を利用するには？

A : 学内 LAN に接続された端末から電子図書館オンライン・ジャーナルのページ

<http://www.tulips.tsubu.ac.jp/online-j/> にアクセスしてください。左側にインデックスがありますので、閲覧したい誌名の最初のアルファベットを選んでクリックしてください。雑誌の一覧が表示されます。リンク集にある「IDEAL」をクリックすると直接 IDEAL のページ <http://www.idealibrary.com/> にアクセスすることができます。(図1)



図1 IDEAL のトップページ

Q : 利用方法を教えて下さい。

A : 閲覧したい雑誌の誌名や巻号がわかっている場合は「Link In」をクリックしてください。誌名・巻号・著者の姓などを入力して、求める雑誌の目次や論文に飛ぶことができます。(図2)



図2 Link In 画面

「Browse」をクリックすると IDEAL で利用可能な誌名が誌名順、主題別、出版社別などにより一覧できます。(図3)



図3 Browse 画面

「Search」をクリックすると誌名、論文名、著者名などにより論文を検索することができます。検索方法の詳細は「Help」で参照してください。

(図4)



図4 Search画面

求める論文のフルテキストはPDF形式とHTML形式で提供されています。お好みの形式で表示，ダウンロードしてください。PDF形式のファイルを利用するためには，Acrobat Reader というソフトが必要です。<http://www.adobe.co.jp/> から無料でダウンロードすることができます。

Q：ダウンロードした論文を友人に渡してもかまいませんか。

A：それはできません。一般に電子ジャーナルを利用するにあたっては，下記のような行為は禁止されています。

- 1 大学の構成員以外の利用
- 2 個人の研究目的以外の利用
- 3 第三者への譲渡
- 4 系統的に大量のデータをダウンロードすること

電子ジャーナルの利用にあたっては，個々の出版社の規定に従ってください。違反行為を行うとサービスを停止されることがありますので，ご注意ください。

*お問い合わせ先

初期設定に関する質問：電子情報係（内線2470）

検索方法に関する質問：各館レファレンスデスク

とひらくす

〔学外〕

第56回関東地区国立大学図書館協議会総会

4月28日（金）宇都宮大学の当番で開催されました。

〔報告事項〕 平成11年度第3回国立大学図書館協議会理事会について 図書館組織・機構特別委員会の活動について 図書館情報大学情報メディア総合センター（仮称）の建設について IDEALオープン・コンソーシアム形成の現状について 国公立大学図書館協力委員会について 第33回関東地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議の開催について，ほか

〔協議事項〕 資料保存システムの在り方について 大学情報の提供における図書館の役割について 情報リテラシー教育に対応した図書館事務組織のあり方について 「教官当積算校費等の改善」に伴う図書館予算のあり方について 第47回国立

大学図書館協議会総会への提出事項等について 関東地区国立大学図書館協議会について，ほか

〔学内〕

第227回附属図書館運営委員会（4月開催）

〔審議事項〕 運営委員会委員及び大塚図書館委員会委員について 副委員長の選出について 平成12年度専門委員会委員の選出及び委員長の指名について，ほか

〔報告事項〕 平成11年度附属図書館運営委員会活動状況について 各館委員会及び各専門委員会について 芸術学系・附属図書館共催特別展「筑波大学附属図書館蔵名品展（仮題）」について，ほか

第228回附属図書館運営委員会（5月開催）

〔審議事項〕 平成12年度図書館資料購入計画に

ついて、ほか
〔報告事項〕 各委員会報告 各専門委員会報告
第56回関東地区国立大学図書館協議会総会につ

いて 平成11年度附属図書館業務統計について、
ほか

掲示板

附属図書館の改修工事について

このたび下記の館内改修工事を行い、利用環境の改善を図りました。

中央図書館本館4階の照明不足を改善

昨年の本館3階の照明設備改修に続き、4階の書架上照明を書架と書架の間に配置し、増設したことにより明るさがアップしました。3階同様にブロックごとに人を感知すると、一定時間点灯するようになっています。



体芸図書館と医学図書館に身障者用トイレを設置

それぞれの図書館の2階にある既設トイレを改修し、身障者用トイレを設置しました。

中央図書館、体芸図書館、医学図書館の各館において、身障者の方も安心して図書館を利用していただけるようになりました。

中央図書館の書架増設に伴う抄録・索引誌の配架場所移動について

収蔵スペースの狭隘化対策として新館3階、4階などに書架を増設しました。

新館に増設した書架には、本館であふれている一般図書を配架することを検討しています。

一般図書の収容場所を増やすため、新館3階および4階の開架書架に配架してあった抄録・索引誌を電動式集密書架に移動しました。スペースの関係から受入中止誌と継続受入誌に分けましたが、継続受入誌は閲覧席に近い、利用しやすい場所に配架しました。新しい配架場所については、OPACと掲示でご確認ください。この移動により多少ご不便をおかけいたしますが、書架狭隘化対策の一環としてご理解ください。

編集室だより

本年度の館報『つくばね』編集委員は、次の8名です。

主査：情報サービス課長 堀内眞也

副主査：情報システム課課長補佐 三浦正克

情報管理課：茅根邦子、竹谷喜美江

情報サービス課：篠塚富士男、高島恵美子、
柄澤英子

情報システム課：金藤伴成